



知恵をしぼった、天災への対応 三郷堰土地改良区 設立 100 年目の大災害

「番水」が被害を最小限に

山形県内各地に大きな被害をもたらした、令和2年7月豪雨災害から1年が経過した。

天童市の高掬、寺津、蔵増の3集落にまたがる三郷堰地域は農業用水の全てを三郷堰中山揚水機場のポンプで供給する地域だが、今回の豪雨災害でポンプ設備が全て水没し、田んぼへの水の供給がストップしてしまった。その年の米の収穫が絶望的になったと思われたが、排水路の水を反復利用し、時間と順番をきめて水を配給する「番水」を行い、地域で連携して知恵と工夫で危機を乗り越え、収穫を迎えることができた。

そして、県、市町村と連携した災害復旧事業によりポンプ設備は復旧、今年の収穫も無事行われた。現在は次の災害に備え、ポンプが再び浸水しないように防水工事が進められている。



三郷堰中山揚水機場 被災状況 (R2.7)



三郷堰中山揚水機場 復旧状況 (R3.9)

三郷堰土地改良区の職員に聞きました

——当時の対応状況は

令和2年は耕地整理組合（土地改良区の前身）発足から設立100年を迎えた年でした。

受益面積500haのうち、200haは完全に水が回らなくなり、残りの300haも供給量が激減してしまいました。当時は出穂期で水がたくさん必要だったため、ポンプを使って排水を用水に反復利用しようとして、国や建設会社などいたるところからポンプを集めました。地元の経験や知見から、水をどう流すかひとつずつ試行錯誤しながら確認し、さらに改良区の垣根を越え、隣接する土地改良区に協力いただき、なんとか田に必要な最低限の水を確保できました。

8月8日から31日まで番

水を続け、4〜5日に1度しか水が供給できない状況にもかかわらず、組合員のみなさんには状況をご理解いただき、水争いする事なく、無事に収穫を迎えることができ、ご協力に感謝しております。

——今後に向けて

三郷堰地域は過去にも大雨の被害に遭い、その経験から独自のマニュアルを作成し、防災訓練を実施してきました。いざというときには約120名が配備できる体制を整え、災害に備えてきました。

しかし今回の災害は想像を超えるものでした。川が増水し避難指示が出たこともあり、現在新しい防災マニュアルを作成しています。この経験を財産にして、安心して農業ができる地域をこれからも繋いでいきたいと思っています。



西沼田遺跡から望む、収穫を迎えた稲穂

農業用水は、最上川の水をポンプで送り、分水施設で水路に分けられ、農地まで届きます。

●お問い合わせ
三郷堰土地改良区
TEL
023-653-3332

